

進路だより

No. 3 令和7年10月2日発行

東京都立田園調布特別支援学校長

川崎 淳子

担当：後藤 貴久

日頃より本校の教育活動に御理解と御協力をいただきまして、ありがとうございます。

先日は荒天の中、現場実習の御対応ありがとうございました。今後も現場実習に限らず緊急時の対応が必要な場面が出てきますので、御家庭で緊急時の連絡方法など事前に御確認ください。先週の個別面談では、今後の進路について確認させていただきました。御不明な点は、担任・学年進路担当にお問合せください。

高1 職場見学

先日、高等部1年生は地域の事業所で職場見学を行いました。初めての体験に緊張する姿も見られましたが、元気よく挨拶をしたり、担当の方の説明に真剣に耳を傾けたりすることができました。実際の作業や仕事の様子を間近に見ることで、生徒達それぞれに感じたことがあったようです。

これからは、見学での気付きを振り返りながら、自分の興味や得意なことを少しずつ整理していけるよう支援してまいります。また、今後の就業体験に向けて、基本的な生活習慣や社会的マナーを大切にしながら、進路について考える力を育んでいきたいと思います。

アフターケア実施

夏季休業中にアフターケアを実施しました。アフターケアとは、卒業後3年間を目安に行う定着支援になります。特別支援学校が行う定着支援は、卒業生が早く職場や福祉事業所に慣れ、卒業後の生活を安定して送れるように支援することを目的としています。

本校は卒業1年目の夏に、訪問等行い卒業生の様子について確認します。その他にも、本人や職場からの要望に応じて、電話や訪問などで話を聞いたり、学校に呼んで追指導を行ったりしています。企業就労の卒業生については、地域の就労支援機関と連携を図りながら定期的に情報交換を行っています。

現場実習について

現場実習Ⅱ期が始まりました。改めて実習に関してのお願いとなります。御確認ください。

○現場実習は学校の教育活動として行うものです。実習先に様々な負担をかけるということを十分御理解の上、対応をお願いします。現場実習に関する件は、全て学校に連絡をお願いします。

施設へ直接連絡することは控えてください。

○持ち物には記名をお願いします。高価なものや高額の金銭を持たせないでください。

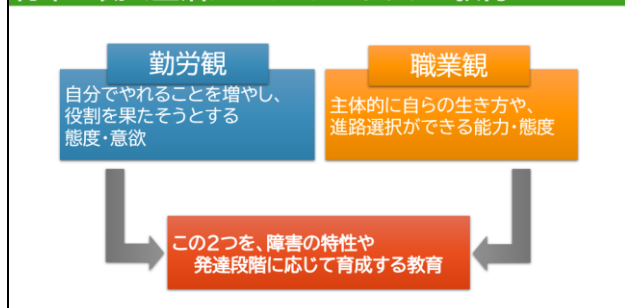
○一人通所の生徒は、実習終了後自宅に到着したら、学校へ帰宅連絡が必要です。生徒本人が学校へ電話をし、帰宅、実習の様子の報告をお願いします。

○荒天時の現場実習について、学校から連絡がない場合は通常実施となります。緊急時の連絡方法などの確認を徹底してください。

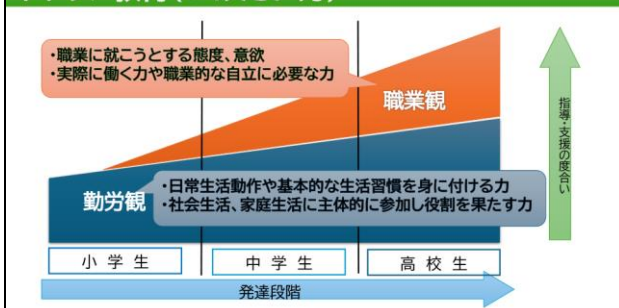
家庭で取り組むキャリア教育

夏季休業中に、特別支援学校の教員向けに進路指導について講演を行いました。その際にお話した内容について、一部御紹介いたします。

将来の働く生活について～キャリア教育



キャリア教育(つけない力)



特別支援学校のキャリア教育～自己有用感へのステップ



特別支援学校のキャリア教育～自己有用感へのステップ

<自分のこと編>

- ★靴をそろえる
- ★帰宅してからの持ち物整理(学校と同じ手だてでできる)
- ★明日の持ち物準備(保護者が用意したものをカバンに入れるだけでも)
- ★使ったものを片付ける
- ★自分の洗濯物をたたむ・しまう
- ★自分で寝る・起きる

<手伝い編>

- ★洗濯物干し・たたみ
- ★食器並べ・片付け・洗い
- ★掃除(部屋・トイレ・風呂)
- ★ゴミ捨て
- ★新聞・手紙取り
- ★買い物(荷物持ち)
- ★料理(ご飯を炊く)
- ★家族の靴をしまう

○家族が助かる・喜ぶこと
○継続して取り組めること(短時間でできること)

ありがとう 助かったよ

キャリア教育には、勤労観と職業観があります。勤労観とは、日常生活動作や基本的な生活習慣を身に付ける力や社会生活、家庭生活に主体的に参加し役割を果たす力です。一方、職業観は職業に就こうとする態度、意欲、実際に働く力や職業的な自立に必要な力です。

勤労観を育てていくうえでポイントとなるのは、自己肯定感や自己有用感です。これらは生徒が、人の役に立った、人から感謝された、人から認められたという、自分と他者との関係を肯定的に受け止められる経験で育つものです。学校では、クラスや授業の中で、係仕事や役割を果たすことを、意図的に取り入れています。御家庭でもぜひ取り組んでいただきたい視点です。

ここで、生徒の1日の生活を見てみましょう。睡眠時間を除いた家で過ごす時間は5時間程度ではないでしょうか。その中で、保護者が子供たちにかかわれる時間はもっと短いと思います。その中で、自己肯定感や自己有用感をどのように育んでいけるのでしょうか。学校では、一人でできることを増やすために、持ち物整理や着替えなどに取り組んでいます。それらをヒントにさせていただいて、御家庭で生徒ができること、かつ保護者が助かることがあると思います。例えば、自分の持ち物の整理です。帰宅したら、カバンから着替えの袋を取り出し、洗濯籠に入れる。連絡帳を決められた場所に出す。帰宅してからのルーティーンにできれば、保護者も助かるのではないのでしょうか。

家庭で生徒が短時間でできることを考えてみました。ポイントは、家族から「ありがとう、助かったよ」と言われる活動です。自分のことができるようになったら、家族のために彼らができることを考えていきます。最初は仕事や流れを覚えるまでは、少し保護者の支援が必要かもしれません。しかしやり方が分かってできるようになれば、言葉掛けだけでできるようになったり、自分からできるようになります。そうすれば少し見守っているだけで、保護者が「ありがとう」と言いたくなることを、行うようになります。これらの役割は継続して取り組むことが重要です。